

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2770700876 | | |
| 法人名 | 有限会社 老蘇さん | | |
| 事業所名 | グループホーム老蘇さん | | |
| 所在地 | 大阪府河内長野市木戸西町2丁目8番20号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年9月11日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年11月13日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年9月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>家庭的な雰囲気大切に、それぞれの利用者の方が自分らしい生き方を継続していけるような支援体制や環境作りができるように努めています。また、入所される前に持たれていた社会や人との繋がりを入所してからも引き続き関わりを持った生活が送れるよう支援しています。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>法人代表者が肉親の介護をしている中で、ごく当たり前の生活の出来るグループホームの必要性を痛切に感じ立ちあげた施設で、平成16年2月に設立した。 代表者の信念は隅々まで行き届いている。職員の一人は言う「利用者一人一人が、今までのその人の生活が続けられるように私たちは手助けするのです。利用者の皆さんが生きていて良かったと、思われる施設になるように努力しています」。介護福祉士の資格は、この事業所で働きながら取得したそうである。利用者は総じて朗らかで明るい。食事の準備をニコニコしながらテキパキとこなしている。活気に満ち溢れた施設を目の当たりにした。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家庭的な雰囲気を大切にし、利用者の方それぞれにとって居心地の良い場所になるように努めている。 | ノーマライゼーションの精神に基づいた事業所独自の理念を作成、廊下に掲示し、日々確認しながら全員が共有して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣への散歩や店舗への買い物等で日常的に関わっている。また地域の行事である祭りにも参加させていただいている。 | 法人として自治会に加入し地域の行事に参加するだけでなく、代表者は自治会の役員を経験、代表者・管理者共々認知症の講話をしたり地域の介護の相談にのるなど双方向での付き合いがある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を通して地域の民生委員の方とも交流を持っている。また市が行っている認知症膏ディネーター養成研修への参加、認知症パートナー実習の受け入れを行った。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の意見交換の中で地域の特性を理解し、地域の中で地域密着型サービスとして貢献できることがないか検討している。 | 家族、自治会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員、事業所職員等が参加し隔月に開催している。会議では現状報告をすると共に話し合いを行い、その意見をサービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議への出席や河内長野市のグループホーム部会において話し合いを持つ機会があり、意見交換を行っている。 | 市役所の担当者とは、運営推進会議のほか、折に触れ訪問をしながら連携を持ち情報交換を行っている。また、管理者はサポーター研修の講師として行政に貢献もしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。安全のために玄関の内扉を設置しているが、利用者の方が自由に出入り出来るように対応している。 | 全職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。各居室の窓も大きく開き開放的である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている | 身体的な暴力はもちろん、精神的虐待が起きないように職員のストレスケアやヒアリングを行っている。 | / | / |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 各制度について学ぶ機会があり、必要な方が支援を受けることができるように関係機関と連携を取り支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約内容、重要事項説明書を説明し、質問や疑問に対して随時対応し、理解してもらえるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族さんの訪問時や3ヶ月に1回のケアプラン説明時に家族さんの意見や要望を聞き、出来る限り意見を反映していけるよう努力している。 | 運営推進会議の他に、利用者には平素の会話の中から、家族等とは来訪時やケアプラン説明時に、意見や要望を聞き出すようにしている。行事に関する事など、出された意見は運営に反映させるようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々のケア時以外でカンファレンス会議、面談等で職員の意見を聞く機会を設けている。 | 定期的に職員会議を行い、シフトや接遇、利用者の対応に関する事など、運営に関する職員の意見を聞く機会が設けられている。また、個人面談の機会も作り運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務時間や仕事の効率化について見直し、働きやすい環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部への研修への参加は不十分だが、声掛けは行っている。施設内の研修を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ケアネットワーク会議に参加しており、地域での研修や勉強会があれば積極的に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用から日の浅い方に対して、その方が安心して過ごすことができる居場所作りと本人のニーズを把握するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期に話し合いをする時間を持ち、お互いが理解し、信頼して頂けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相手方のニーズに合わせ、通所やショートステイといったサービスも検討し、必要なサービスを提供できるように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家庭的な環境の中で、利用者の方が担ってもらえる役割を担当してもらい、お互いに支え合った生活ができるように支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | カンファレンスを通じて、ご本人さんへの関わりや支援を少しでも多く持ってもらえるような関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方との関わりを大事にし、出来る限り関係を継続できるように、時には訪問することもある。 | 利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、歌声喫茶や買い物、美容室等、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者さん同士の会話や関わりを大切にし、状況を見ながら、大きなトラブルや混乱がおきないように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も家族や本人と関わりがもてるように支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人を中心にどのようなケアがQOLの向上につながるのかを検討し、細やかにアセスメントをとっている。 | 利用者がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中から聞き出し、その想いは家族と相談をしながら、出来る限り意向に添った支援をするようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人から直接話を聞かせてもらうのは、もちろんのこと、家族さんやこれまで関わりのあった方からも情報収集に努め蓄積している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 定期的に生活全般に関わるアセスメントをとり、本人さんの状態に合わせた支援ができるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護職員、家族さんと話し合いの中で介護計画を作成し、本人さんにも希望や要望を聞き、それを反映できるよう努力している。 | 介護計画は3ヶ月毎に担当者が中心になって、本人や家族の意見を聞きながらアセスメントシートをチェック、見直しを行なっている。現状に即した介護計画が出来上がっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々のサービス内容を個別に記録し、定期的に評価を行い、介護計画の見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 1人ひとり個別のQOLを高めるために、出来る限りニーズに合わせた対応ができるよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 日常的な散歩や買い物を含め、これまでの関わりを継続していけるように努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 信頼できるかかりつけ医と連携を取りながら、適切な医療を受けられるように支援している。時には家族さんの協力もお願いしている。 | かかりつけ医は、本人や家族等の希望する医療機関になっている。また、受診や通院支援についても利用者本人や家族等の希望に応じて対応するようにしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護と看護が連携し、必要に応じて医療へとつなげる体制が取れている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 利用者の方が適切な医療を受け、早期に退院できるように、家族さんへの支援や医師からの病状の説明がある時は同行するようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族さんと話し合いをする機会に終末期のあり方について話し合い、時期を見て確認を行っている。 | 重度化した場合の終末期のあり方について、家族等と話し合いを行い事業所として出来得る事を説明している。しかし、看取り介護指針および同意書の作成と同時に職員研修の機会を持ち理解を深めることを望む。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に、状況確認や応急対応の訓練を行い、実践力のある対応ができるように心がけている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の避難訓練を行い、昼と夜を想定した訓練も行っている。 | 災害時における避難訓練や消防訓練を利用者と共に年に2回消防署指導のもと行っている。災害に備えた備蓄備品も整えられている。また、夜間を想定した訓練も近隣に住む職員家族の協力を得て行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 声掛けや対応について尊厳を持った姿勢で対応できるように職場全体で関わっている。 | 利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルも事務所の書棚に施錠して保管されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の自己決定を尊重し、相手の方の状況に合わせた声掛けを行い、本人が自己を表出できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々に合わせた生活ペースで過ごせるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人さんが望む形で衣類の選択や化粧やマニキュアを好みに合わせて支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事を楽しみとしてとらえてもらえるように、準備を一緒に行ったり、食事環境に配慮している。 | 1週間分の献立に沿い、主な食材は生協から取り寄せている。利用者と職員が共に後かたづけをしたり、同じテーブルで楽しく語らいながら食事をする家庭的な風景が見られた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分量の把握と相手の方に合わせ、無理なく摂取できるように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 相手の方に応じて、口腔ケアの回数は異なるが、就寝前には清潔な状態で休んでもらえるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 寝たりきり状態になられても、トイレでの排泄支援を行っており、できる限り失敗せずに気持ちよく排泄ができるように支援している。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを職員は把握して、さりげなく誘導をし、自立に向けた支援をしている。夜間は2時間毎に見回りし、パット交換等に対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分摂取量、運動量の確保やマッサージを行うことで薬剤だけに頼った排泄支援にならないように努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の時間や間隔をなるべく本人のペースに合わせた支援を行っている。 | 入浴の曜日は一方的に決めてしまわず、週に2~3回、午前、午後なども利用者の希望に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援がされている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 相手の生活リズムに合わせた支援が行えるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の内容と効果、副作用を頭に入れながら、注意して観察と記録を行い、症状に合った薬が処方されるよう支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 役割や楽しいごとがあることで、生活の充実にもつながることを理解し、本人が張り合いのある生活がおくれるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 閉鎖的な環境にならないように、いつでも外に出る事ができるような体制を取っている。また本人の希望に沿った外出も支援できるように取り組んでいる。 | 利用者のその日の希望に添って、事業所周辺を散歩したり、ドラッグストアや関西スーパーへ買い物に出掛けたりしている。時には外食に出掛けたり、花の文化園に出掛けることもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の能力に応じて、支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望に合わせて、適度に電話の利用をして頂いている。また暑中見舞いや年賀状を出してもらえよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 混乱がおきるような生活環境は出来る限り早急に改善し、居心地が良い空間で過ごしてもらえよう取り組んでいる。 | リビングルームが3箇所があり、気のあった者同士それぞれがテレビを見たり、話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った作品の展示があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | カーテンの仕切りや席の配置に配慮しており、本人さんが落ち着いて過ごせる居場所作りに工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家から出来るだけ馴染みのものを持ってきてもらい、落ち着ける空間作りに努めている。 | それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしい飾り付けがあるなど居心地良く過ごせるための工夫が見られる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 分かりやすいように貼り紙や安全に過ごせるような手すりや内扉の設置があり、出来る限り自立した生活が送れるように支援している。 | | |